

平成29年度の教育活動等に関する学校評価書

教育目標(誠実な人、良き社会人の育成)

静岡サレジオ小学校長 末吉弘治
学校法人星美学園 学校評価委員会

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価
		評価点	学校としての反省・改善策	
1	教育目標	A	小学校の教育目標あたたかな思いやりと活気に満ちた明るい子を育成する教育活動ができた。今後は更なる充実を目指して、改善を重ねていく。	
2	宗教指導	A	宗教の授業を大切にし、小学校全体で宗教行事に参加することができた。行事だけでなく、日頃の生活の中にも神様の存在を感じ生活することができた。	
3	教育課程	A	研究部の教員を中心に目標達成のために適切な取り組みがされている。特に今年度は国際バカロレアで重要なエキシビジョンを12月末行うことを決め、その目標に向かって教員全体で練りあい、理解を深めることができた。次年度以降もより充実した教育課程になるよう継続して検討したい。	
4	評価・認定	A	1人ひとりの子どもを大切に、丁寧に指導をしている。英検Jr.のテストや読書診断指数など外部評価も取り入れ、学習の成果を客観的に評価している。	
5	教科指導	A	全体的に落ち着いた環境で学習に取り組んでいる。学校の組織として、支援が必要な子たちへのフォロー体制が必要。もう少し専科教員が学級に入り、複数名で児童を見る環境を整えることで改善が図ることができる。	○自己評価の内容からすれば、評価記号はBが適当。 ○6年間の英語の授業時間や学びの環境には大変満足しているが、中1、中2の段階で足踏み状態になるのが惜しい。外部からの入学生に合わせるのも理解できるがミドル英語のようにクラス分けすれば良いのではないかと。
6	授業研修	A	研究部の教員を中心に、時間を確保し計画的に研修に取り組むことができた。今年度は授業研修、宗教研修はもちろんのことICTの研修も積極的に取り組むことができた。	
7	学級経営	A	学級の児童と共にいることを大切にし子どもたちの心をとる取り組みを実践している。緊急時には保護者とも連絡を密にとり適切に対応している。	
8	生活指導	A	JR通学児童のマナーの改善に取り組んでいる。児童の様子を正しく把握し、より適切な指導の実践のため全体での指導の時間を確保できるとよりよい。	○JR等の通学等でまだまだマナーの守れない児童、生徒がいるようだ。大きな事故にもつながりかねないので徹底した指導をお願いしたい。
9	進路指導	A	児童や保護者と面談を複数回もち、児童の将来を考え進路指導を行っている。悩んでいる児童や保護者とは時間を惜しまず適切な指導を行っている。	○学園を卒業し静岡県外に出てみると、他所は現実的な視線で情報を集め、それぞれの子供達に合った進路設定が早い時期からなされていることに気がつく。静岡県、特に中部地区はのんびりしているように思う。先生方は周りの状況をご存知だと思うので、早い時期(小学校のうち)から子供に合った進路と学習方法の情報提供をお願いしたい。
10	安全管理	A	JR通学児童の多い本校では、毎日、当番がJRまでの通学路や駅構内を時間ごとに区切り、必ず見回っている。非常時には、最遠方の児童を最寄駅まで引率し、確実に父母へ引き渡すようにしている。	○JR高架橋下の工事も行われており、工事車両、迎いの車両と子どもたちが交錯して危ないと感じる場面があった。
11	校務分掌	A	全教員が責任を持って任務を遂行している。一人ひとりの教員に対し、管理職からの指導及び正しい評価が必要である。	
12	行事運営	A	児童の成長段階に合わせた行事が適切に設置されている。年々行事が増えていく傾向があるため毎年の見直しが必要である。	

13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	週に1度行われる幼小中高での打ち合わせ、月1度の学園全体での会議や幼小中高連絡会などを定期的に開き、学園全体が足並みをそろえ運営している。今後は現場レベルでの各校種の情報を共有する場を増やしたい。	
14	施設・設備	本校の施設、設備は児童が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	B	経年劣化のため修理の必要な箇所が多い。トイレ環境の改善及び増設が必要。今年度は水道の赤水対策が改善されてよかった。また、学年で使える特別教室が複数あるとよい。	
15	課外活動	放課後の課外活動を通じ、教師が常に児童と共にいるように努めている。	A	週2～3回の課外活動を児童は喜んで行っている。課外活動がない日には、放課後担任の先生を中心に児童を残し学習の指導を積極的に行っている。	
全般、総合評価			A	<p>・子供の成長のために、教員が一丸となって取り組み、どの項目においても、十分に成果があった。4-4-4制になり、初めての高3を送り出し、今までのカリキュラム効果が進路実績に十分に反映されていると感じた。来年度からはプライマリー、ミドルでバカロレアの授業が本格的に始まる。教員一人ひとりが改めてどういう子ども達を育てたいか考え授業を計画していくべきである。IB候補校になるにあたり、今後は教員同士の共通理解を深めるため、忙しい中でも時間を捻出し、相互理解をし、少しずつ進んでいけるようにしたい。</p>	<p>○子供一人ひとりを見つめ丁寧に指導いただいていると感じる。学校全体が前向きで積極的な取り組みを行い、未来へのビジョンをしっかりと持って前進していることを先生方、職員の方々から感じられる。カトリックのミッション校という特色もあって、優しさもあり、厳しさもありという校風が感じられてとても良いと思う。</p>

※評価点
A:十分に成果があった
B:成果があった
C:少し成果があった
D:成果がなかった

今後に向けての考え(学校関係者評価を受けて)
新学習指導要領に向けた授業改善とその組織作りに着手した平成29年度であった。国際バカロレアPYP候補校認定されたことは、学校改革の具体的な形を示すものであった。平成30年度は実践に移行するとともに、探究型授業の研究、教員研修組織、学習評価、保護者への説明会等、内外に対しオープンに学校の現状を伝え理解を求め。また、ICT等、21世紀型教育に対応した教育環境も整備していく。